



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ルノー／日産

5

— グローバル・アライアンスの形成：ルノー編 —

1999年3月27日、ルノーと日産は包括的なグローバル・アライアンスに調印した。このケーススタディは、ルノーの観点から提携形成のプロセスを記したものである。多くの面で非常に異なるふたつの企業の接触が始まった1998年6月から1999年3月までを追いながら、提携合意を実現させるまでの内部の動きを追う。

10

ジュネーブ、1999年3月3日 — 国際モーターショー

15

昔から、主要自動車製造業者が集うジュネーブ国際モーターショーは、新しいプロトタイプを発表したり、市場のトレンドをはかったりする場であった。しかし今年、展示メインホールでの話題は、製品の話にも劣らず国際企業の戦略的動きに集中していた。年頭より、日本第2位の製造業者日産の提携をめぐる大きな動きが進行しており、日本の会計年度末の3月30日までに成立させなければならなかったからである。

20

2社が名乗りをあげていた。ひとつは、マーケットシェア4.3%、世界第9位の製造業者、フランスのルノー・グループで、日産との交渉は10ヶ月以上にも及んでいた。もうひとつは、世界市場の8.4%を占める世界第5位の製造業者、ドイツ・アメリカの巨大企業ダイムラー・クライスラーで、1998年12月以降関心を示していた。

25

このケースは「ルノー／日産 グローバル・アライアンスの構造」を基に、慶應義塾大学ビジネス・スクールの浅川和宏助教授がルノーの観点からの記述部分のみを抽出し編集したものである。

本ケースの該当部分は、オリビエ・マクレ（博士過程在学中、EMリヨン）が慶應ビジネス・スクール、浅川教授、リヨン・ビジネス・スクール、ゴメス教授、ロンドン・ビジネス・スクール、コリン教授の指導のもとに作成したものである。LBSのストラテジック・リーダーシップ・リサーチ・プログラム、EMリヨンの「ルドルフ・メリウー」ベンチャー研究財団、慶應ビジネス・スクールの海外ケース開発基金からの財政支援に深く感謝する。

30

本ケース（ルノー編）は、2000年春にパリで行った以下のエグゼクティブとのインタビューに基づいている。

MM. ダサス VP、財務、ド・アンドリア VP、コーポレート企画、ドゥアン EVP、提携コーディネーター、ユッソン VP、法務、レヴィ EVP、財務、シュヴァイツァー 会長兼 CEO。